

東京大学大学院人文社会系研究科  
次世代人文社会学育成プログラムによる海外派遣  
帰国報告

最終報告提出日：2013年 1月 29日

**派遣生の基本情報**

氏 名：李 仙喜

所 属 先：韓国朝鮮文化研究専攻 韓国朝鮮言語社会専門分野 博士課程2年

派遣形態：平成24年度 夏学期 個人派遣

**研究課題名：**1900年のパリ万国博覧会に展示された朝鮮刊本に関する研究  
—フランス・パリの言語文化大学図書館所蔵本を中心に—

**派遣先での活動**

(1) 派遣先の基本情報

国 名：フランス

都 市 名：パリ

研究機関名：言語文化大学図書館

(Bibliothèque universitaire des langues et civilisations. 以下「BULAC」)

コンタクトした主な研究者名：ロラン キスフィ(Laurent QUISEFIT : BULAC)

金 デヨル(KIM Daeyeol : INALCO)

盧 美叔(NO Mi-Sug : Collège de France)

(2) 派遣期間

出発日：2012年10月04日

帰国日：2012年12月27日

総日数：85日

**主な研究成果**

(1) 当初の計画の概要

モリス・クーラン(Maurice Courant)の『朝鮮書誌補遺版』(1901年)によると、1900年のパリ万国博覧会で展示されていた朝鮮刊本のほとんどが旧東洋語学校に寄贈されたと書かれているが、それらが具体的にどのような本であったかについては今まで研究されていない。万国博覧会で展示された本は朝鮮王室で選別した貴重なものであり、アジアとヨーロッパの文化交流研究の面においても、その歴史的価値は大きいと考えられる。

モリス・クーランの『朝鮮書誌補遺版』(1901年)を中心に、当時展示されていた本の中で唯一題名が知られている『白雲和尚抄録仏祖直指心体要節』と、2012年3月に行なった筆者の現地調査で新しく浮かび上がった『改修捷解新語』の書誌事項を参考にして、BULAC所蔵の朝

鮮刊本の書誌調査を行うことにより、1900年のパリ万国博覧会で展示されていた朝鮮刊本についての手がかりが得られるであろう。

## (2) 実際に達成された成果

当初は『改修捷解新語』の本文で見られるなぞり作業が展示のために行なわれた可能性があるかと予測していたが、実見したところ、なぞりや修正は一部の訳学書で部分的に見られるだけで、他の本ではそのような例は見ることができなかった。装丁にいくつかのパターンが見られることから、本文ではなく、むしろ装丁に注目すべきであると思われる。BULAC所蔵本については、今後書誌事項や寄贈番号などを総合的に検討し、現在日本と韓国にある異本と対照することにより、その性格がより鮮明に浮かび上がってくるであろう。

今回の調査で得られた成果は次の3点である。

第一は、博士論文執筆に必要な訳学書を中心に、38種117冊の朝鮮刊本の書誌調査を行い、写真撮影も行なったことである。特に、個人研究者に写真撮影が許可されたのはつい最近のことであり、今後日本所蔵本および韓国所蔵本との対照研究を進めて行く上で欠かすことのできない貴重な資料である。

第二は、寄贈番号や書誌事項が書かれているカード目録の写真撮影を行なったことである。現在BULAC所蔵の朝鮮刊本は600種を超えているが、全体目録がなく、OPACにも載っていない。閲覧申請時に必要な書誌事項は、現代の本まですべてを扱っているカード目録から探し出さなければならない。しかも、カード目録には書いてあるものの所在不明の本もあれば、目録番号が抜けているものもあり、総冊数は未だに明らかでない。寄贈番号や書誌事項が書かれているカード目録を今後検討、再整理する作業を進めることにより、目録作成時の事情のみならず、所蔵経緯を究明する端緒を得られるものと考えられる。

第三は、コレージュ・ド・フランス所蔵の旧モリス・クーランの蔵書に含まれている12枚の印刷物を確認し、コピーと写真撮影を行なったことである。そのなかにはモリス・クーランの『朝鮮書誌』に挿入されているものも含まれていた。今後、この12枚の印刷物と『朝鮮書誌』との関係についても探してみたいと思う。

## (3) 今後の研究展望

今回は筆者の博士學位論文執筆と直接関わる訳学書を中心に実見を行なった。これは全体の一割にも満たない少ない量ではあるが、刊年からみると朝鮮時代のほぼ全時期をカバーするものである。BULAC所蔵本を含め、当時モリス・クーランとコラン・ド・プランシーによりフランスに伝わった朝鮮刊本の書誌学的特徴を明らかにするために大いに活用できると思われる。

今後の研究の流れを提示したい。まず、BULACのカード目録と韓国国立中央図書館にあるBULAC所蔵本のマイクロフィルムを用いて目録を作成する。次に、倭学書を中心にBULAC所蔵本と日本所蔵本、韓国所蔵本の対照研究を行い、他の訳学書の対照研究へと拡大していく。この作業によって朝鮮の印刷文化や現在に至るまでの所蔵経緯も明らかになると期待される。